

活動報告書

報告者氏名:林真樹 所属:栃木県立足利特別支援学校

記録日:平成27年2月14日

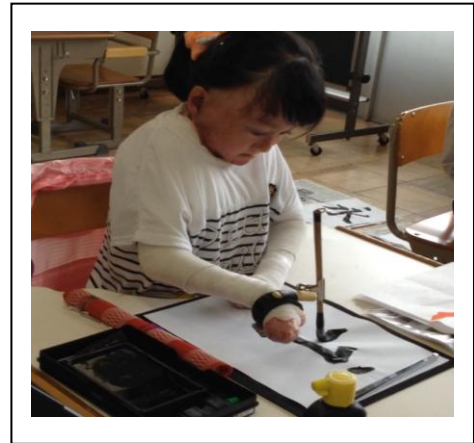
【対象児(群)の情報】

○学年 小学部6年生

○障害名 表皮水疱症

○障害と困難の内容

学習意欲が高く、学年相応の学習を望んでいるが、毎日の長時間のケアや病状による疲労があり、時間的、体力的な制約がある。また、手足の指が握りこんだ形で皮膚が癒着し、身体の可動域が狭く、歩行や手指の活動に制限がある。制約がある生活に慣れてしまっていることから、生活の中での活動に対して「きっと無理だろう」と考えている様子で、自分から「やりたい」と主張することが少ない。



【活動目的】

○当初のねらい

・iPadを活用することで、学習を効率的に行えるようにする。

○実施期間 平成26年度4月～12月

○実施者 林 真樹(はやし まき) 池田一江(いけだ かずえ)

○実施者と対象児の関係 林 真樹(自立活動担当者) 池田一江(今年度の担任)

【活動内容と対象児(群)の変化】

○対象児(群)の事前の状況

・機器の利用においては、自分のiPadを持っていて「これを使ったら便利になるのでは？」と感じている様子だったが、それをどう利用すればよいのかわからない状況だった。iPadの基本的操作方は理解していたが、アクセシビリティの利用や授業にiPadを使うことなどは経験がなかった。

・学習意欲が高い反面、生活面においては「～を試してみたい」「みんなと～しよう」といった意欲をみせることがほとんどなかった。普通小学校に在籍していた際、肢体不自由や病状により様々な活動への参加が難しいことが多かったため、「どうやったら～できるかな？」といった考え方をした経験があまりなかった。

・介助を受けることが多かったことや、介助者が立てた計画に沿って活動していることが多かったためか、「自分でやってみよう」「こんなことをやってみたい」「この順番でやったら早くできるみたい」など自分が主体となって考えたり、動いたりすることが少なかった。

この実態を受けて、

自分で計画したり、工夫したりする経験が不足していて、このままiPadを導入したら、言われたままに利用はできても、将来一人で使いこなそうと思えるのかな？

↓ という、不安が生まれた。そこで、

教師が選択肢を用意し、その中から自分に合ったもの、自分が使いやすいもの、その場面にあったものを選ぶことで、自分で考えながら課題を解決していく方法を学ぶ必要があると考えた。

○活動の具体的内容

・授業における困難さへのサポートをする。(教師がアドバイスはしていくが、本人と相談しながら、どうすれば良いかを一緒に考えることで、課題解決の方法も学べるようにする。)

①iPadの基本的操作方法の確認・検討(※1)

②iPadを使って板書をまとめる(※2)

・メールや自作動画(※3)、コンテンツ、Bytalk(※4)を利用して欠席時の情報、学習を補う。



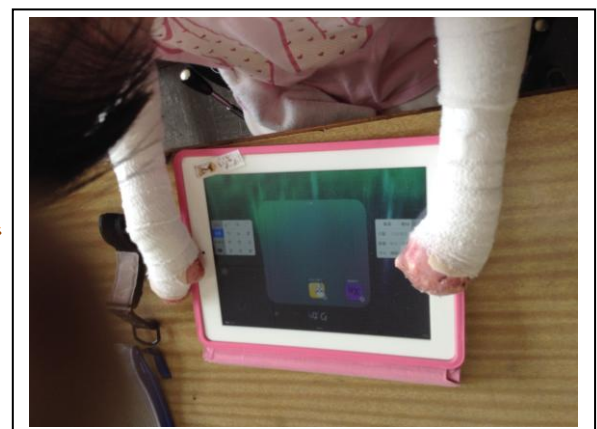
(※1) 自分で利用頻度を考えて
アプリ位置を使いやすく変更



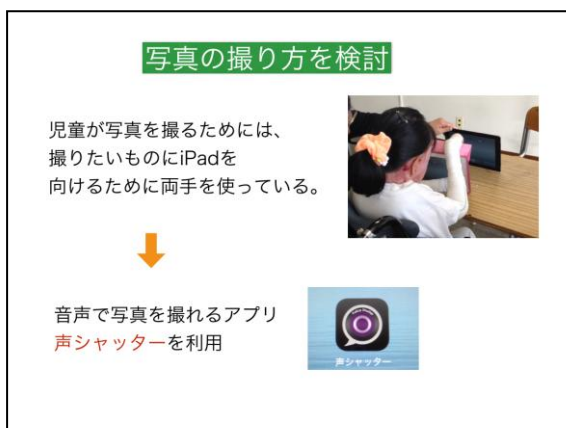
(※1) 自分でアプリのまとまりを考えて
フォルダを作成



(※1) 入力方法の検討



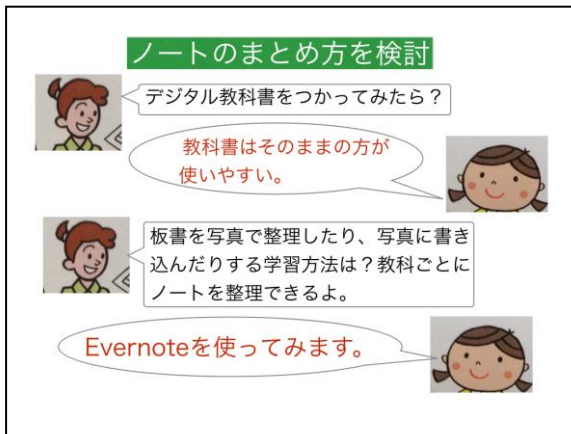
フリック入力の様子



(※1) 写真の撮り方の検討



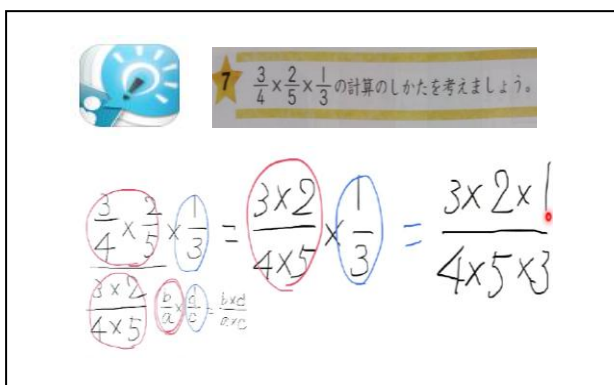
(※1) iPadで検索した画面を記録するためにアクセシビリティの中のスクリーンショットを使用



(※2) 板書を iPad で



Evernote に自分で撮った
板書写真を取り入れて整理



(※3) 自作ミニ動画



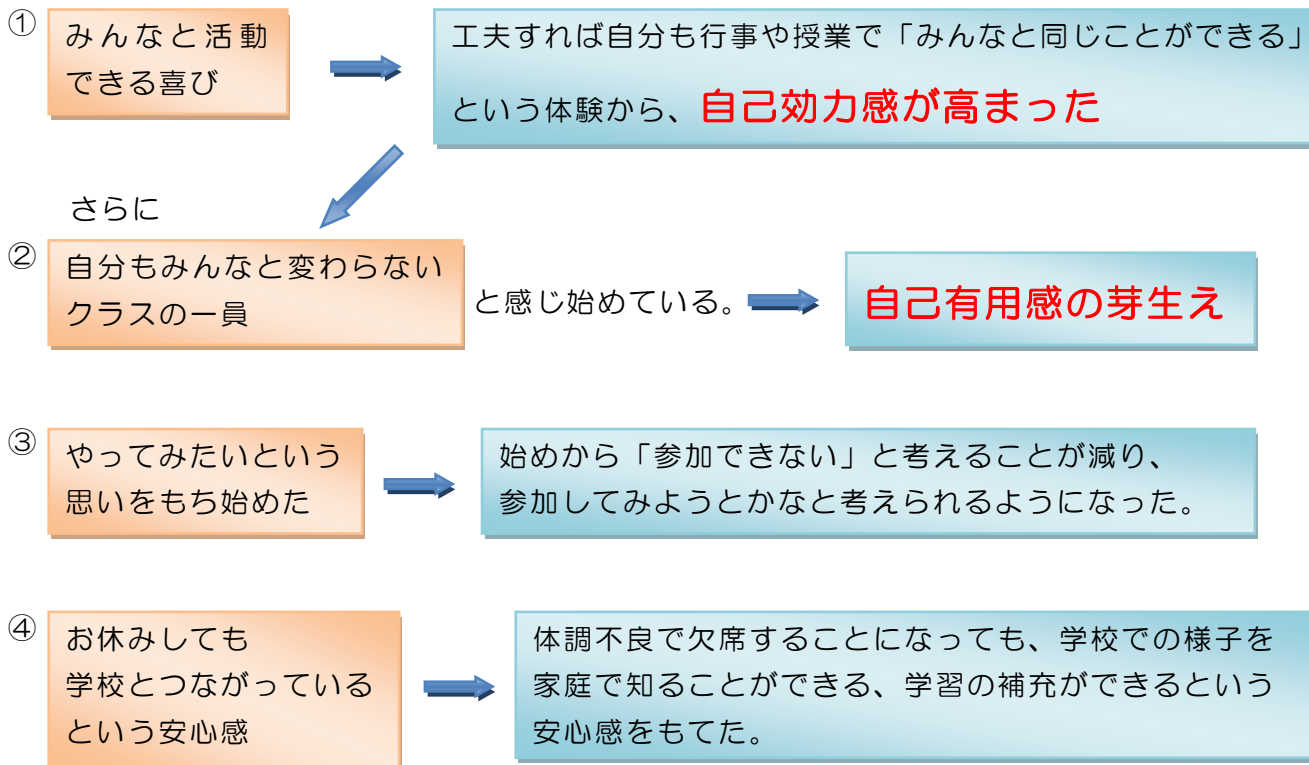
(※4) Bytalk を利用して欠席時の連絡

○対象児(群)の事後の変化

- ・欠席しても、午後活動できるようになると、教師が知らせた学習単位と同じ内容がコンパクトにまとまっているコンテンツや教師自作のミニ授業動画を視聴するなど、家庭においても学習を進めることができた。
 - 欠席していても、午後になり活動できるようになると、学習に向かう姿勢が多くみられるようになった。
- ・欠席時に Bytalk を利用し、板書の画像で連絡帳の内容を知らせた。その他、休み時間におきた出来事などもクラスメートの協力で動画で知らせた。
 - 欠席時には連絡帳を書く時間位に Bytalk を開き、連絡を確認し、返信をしてくるようになった。
(上記の※4の時間に注目すると、欠席時の学校での様子を気にしていることがうかがえる)
 - 自立活動の振り返りにおいて、来年度も Bytalk を利用したいと希望している。
- ・Evernote の使い方を自立活動で学習すると、算数の時間に撮った板書の写真を、Evernote に自分でまとめてくることがあった。
- ・英語の授業の板書を自分から写真に撮ることがあった。
- ・居住地校交流において、方法の工夫により教師の少ない支援で授業に参加できるという体験をすることができた。
 - まだまだ学習面で工夫の余地があることや、工夫次第では、自分一人でも授業に参加できるのかもしれないと感じられるようになってきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき



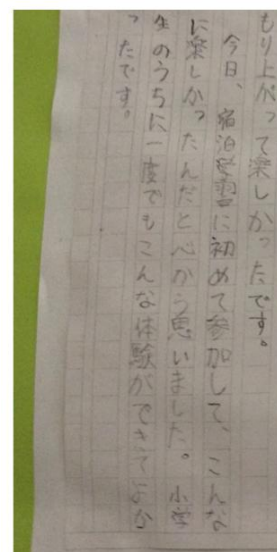
○エビデンス(具体的数値など)

- ・ 友達とおもしろい映像を撮って楽しんでいる様子が見られた。①
- ・ 自分が休んでいる時にも、同じように休んでいる友達に Bytalk で自分から体調を気遣う呼びかけの書き込みを行った。②④
- ・ 今まで参加したいと言わなかった行事にも、参加したいと言ったことが増えた。③
- ・ 道具の使い方の工夫を自分なりに考えて提案できた。③



< 宿泊学習の感想 >

三角定規や分度器を、購入した時のケースのまま使用していたが、どうしても教師の手を借りないと準備できない状況だった。それを「自分で用意できるよう工夫できないだろうか？」と、自立活動の時間に教師と一緒に考えた際、自分から「入れ物の箱にスポンジを敷いたら、片側を押せば定規が浮き上がり、一人でも取り出せるようになると思います。」と、自分に合った方法を考案できた。



みんなと同じことができて嬉しい！

宿泊学習のレクリエーションに参加したときの様子

○その他エピソード(画像などを含めて)

今まで周りの同学年の友達と同じことをするという経験がなかったため、友達と自分は違うものと捉えている様子うかがえた。だからといって、決して悲観的にとらえていたわけではなく、素直にそういうものなんだと受け止めていた様子であった。しかし、今年度、運動会の競技に参加できたこと、遠足で初めて母親と別行動をとれたこと、宿泊学習の1日目の活動を友達と一緒にできたことなどの様々な成功経験により、本児が充実感を味わうことができ、考え方が変化してきていると思われる。**自分も友達と変わらないんだ**という気持ちが芽生えてきていると感じている。活動への意欲もわいてきて、母親に対して「みんなと一緒に〇〇したい」「ここはみんなと一緒にの方がいい」などといった自己主張もでてきている。生活の中で自分に合った方法を見つけられれば、「自分ができること」「自分でできること」が多いことに気づけたので、今後は「どこを」「どう」工夫していけばより豊かになるのかを自分自身が意識していくことで、将来社会に出ていくための力を養うことができると期待している。